



TITLE:

平成24年度技術職員研修会の実施報告

AUTHOR(S):

日名田, 良一; 有馬, 博人; 佐藤, 祐司; 塩田, 憲司; 西崎, 修司; 堀越, 亮; 宮嶋, 直樹

CITATION:

日名田, 良一 ...[et al]. 平成24年度技術職員研修会の実施報告. 京都大学工学研究科技術部報告集 2013, 10: 88-88

ISSUE DATE:

2013-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/193641>

RIGHT:

平成24年度技術職員研修会の実施報告

○日名田良一、有馬博人、佐藤祐司、塩田憲司、西崎修司、堀越亮、宮嶋直樹
京都大学 大学院工学研究科 技術部

1. はじめに

技術職員研修会

- 開催頻度は2回/年
- 主対象は工学研究科技術部の構成員
- 技術部構成員は多様な専門分野を持つ



企画・運営は決して容易ではない！



研修委員会が中心となり対応

(平成24年度メンバー：様々な分野の16名)

《平成24年度に実施した研修会について紹介》

2. 過去の技術職員研修会

過去5年間の実施内容

年度	第1回	第2回
H23	施設見学 (京大飛騨天文台・ スーパーカミオカンデ)	講義・実習(コンクリート)
H22	施設見学(Spring-8)	講義・実習(火おこし器の製作)
H21	講義・実習(安全衛生)	講義・実習(情報)
H20	講演・技術発表・全体討論	施設見学(日吉ダム)
H19	講演・技術発表・全体討論	施設見学(製薬会社・造幣局)

傾向

- 第1回は8～9月、第2回は11月に開催
- 施設見学、講義・講演は毎年実施

3. 平成24年度 研修内容の検討

技術職員研修会の意義

- 通常業務では見ることのできない施設を見学できる
- 教員講義：大学での研究内容に触れる貴重な機会
- 技術発表：日頃の業務やそれに伴う成果のまとめと見直し→今後の方向性を考えるきっかけ
- 実習の講師：教える立場の難しさを実感
受講者：専門外の知見を広げる
その分野の技術職員の業務がわかる

平成23年度研修の受講者感想文から

- 日程は日帰り(長距離移動は負担大)
- 講義と実習を組み合わせる
- 最先端の研究施設や学内遠隔地施設の見学

⋮

両者を考慮して研修内容を決定

4. 平成24年度技術職員研修会の実施

<第1回 講義・実験 化学分野>

- 実施時期 8月
- 内容
教員講義：一つ一つの分子を見る、触る
「分子ナノテクノロジー」
実験：フォトクロミック化合物の光反応
- 運営上の工夫・問題点
 - ・実験時、各グループ(4つ)に化学が専門の技術職員(少なくとも1名)を配置
 - ・「実験の手引き」は、教員と主担当研修委員による力作(打合せ・予備実験等)

<第2回 施設見学 学内遠隔地>

- 実施時期 11月
- 見学先 フィールド科学教育研究センター
森林ステーション 芦生研究林
- 内容
教員講義：芦生研究林の概要と森林資源の利用
施設見学：芦生研究林
- 運営上の工夫・問題点
 - ・屋外での見学のため、雨天時のメニューを準備する必要があった。

5. 受講者感想文から

第1回

- 講義と実習が連動しており理解が深まった。
- 各グループに化学が専門の方がいて、スムーズに実験を進められた。

第2回

- 普段行くことのない、工学と違った環境を見学できてよかった。
- 移動時間が短く、講義や見学に時間をかけられたので、有意義な研修だった。

6. まとめと今後の課題

不参加者への対応

- 技術部構成員の研修への参加率：50%程度
→ 不参加の原因調査

研修委員の負担

- 特定者(研修内容に精通した者など)への過度な負担 → 企画・運営で配慮が必要
(バランスの取れた役割分担など)

有意義な研修を企画・運営できるよう努力していく